

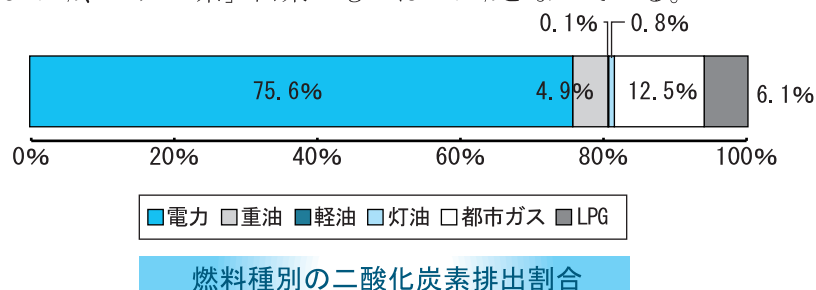
個別の事業所における一年間のエネルギー消費状況をみていくと、「製造業①」と「卸小売業①」がともに1,000万kWhを超えている。これらは3番目の「食品加工業」の倍以上であり、エネルギー消費量が突出して高い。4番目の「業種不明」は270万kWh、さらに「飲料製造」から「医療・福祉業②」までが100万kWh台が続いている。

公共施設で最大の消費量であった市民会館（125万kWh）と比較すると、市内では産業部門や民間事業所系のエネルギー消費量が多くなっている様子が読み取れる。

（2）二酸化炭素の排出量

エネルギー消費に伴う二酸化炭素の排出量を見ると、これら有効回答18施設からは年間14,331.8t-CO₂が排出されていると推計された。上述の全公共施設からの総排出量（2,639.4t-CO₂）と比較すると、その量は5倍以上に達している。

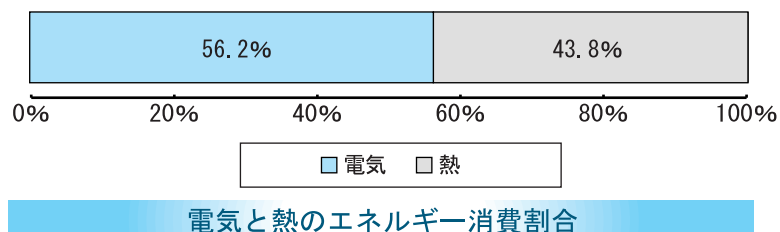
発生源となった燃料種別に見ると「電気」の消費に由来するものは全体の75.6%、「石油系」由来のものは5.8%、「ガス系」由来のものは18.6%となっている。



（3）熱と電気の消費構造

アンケートの各燃料の用途に対する消費割合を踏まえて「電気」と「熱」の用途別の割合を概観する（比較にあたって「動力」の数値を除外している）。

その結果、対象事業所全体で消費される燃料（62,659,705kWh）のうち、72.7%（45,542,229kWh）が動力を除く、電気と熱エネルギーとして使用されていることがわかった。そして、この動力を除くエネルギー消費量のうち「電気(照明等)」に消費されているものが56.2%、「熱」のために消費されるものが43.8%を占めていると推計された。



個別施設で見ると、各施設のエネルギー総使用量に占める、熱エネルギーとして消費している割合が半分以上を占める施設は9施設に及ぶと想定される。

中でも「飲料製造」や「クリーニング業」などでは、熱需要が総エネルギー消費量の9割以上を占めている。また、「医療・福祉業」ではいずれの事業所でも、総エネルギー消費量の5割から6割程度を熱需要で占めているという特徴も見出せた。